



2017（平成29）年度の情報システム利用状況

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-11-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮本, 貴朗 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/16093

2017（平成 29）年度の情報システム利用状況

学術情報センター長補佐 宮本貴朗

2017（平成 29）年度の『情報』にある統計数値を見ると、本学が提供しているサービスの利用状況だけでなく、社会における ICT 普及の動向が利用者の利用傾向として反映されている。情報基盤システムおよびキャンパスネットワークは 2016 年度途中の 8、9 月に更新しているため、前年度同月との比較について前半の半年間は第 2 期情報システムのデータとなるが、昨年度と同様にここ 1 年間の各種の統計データから、学内における ICT 利活用の動向や情報セキュリティ関連の状況について変化を読み解いてみたい。

スパムメールの一時的な増加

学外からの電子メールの受信状況をみると年間の受信総数は 1,000 万通から 913 万通と少し減少している。スパムメールの数だけを見ると 2016 年度は年間 2,400 万通、2017 年度は 2,300 万通であるので、有効な電子メールの受信状況にはあまり変化がみられない。10 月と 11 月のスパムメール（迷惑メール）であるが、Microsoft Office365 の EOP（Exchange Online Protection）で検知および隔離が行われているため、詳細については不明であるが、2016 年度にも 10 月から 12 月の 3 ヶ月間においてスパムメールの数が異常に増加していたので、時期的に集中的に攻撃を受けた or なんらかの異常値ではないかと考えている。一昨年ぐらいから、ランサムウェアやコインマイナーなどの特別な名前がついているマルウェアがあるが、利用者として特に注意が必要なのは電子メールと Web を利用したフィッシングサイトからのマルウェアの感染であり、昔と同様に現在でもあまりその構図は変わっていない。

ポータルシステムの利用増加

各種の情報システムへの入り口となっているポータルシステムへのアクセス数であるが、2016 年度は前年度比で学生 28%程度、職員 68%程度、教員 54%程度のアクセス数の増加が認められたが、2017 年度には利用者数にはあまり変化がない。教職員・学生すべての利用者において、ポータルの利用そのものが定常化しているとみるのが妥当であろう。

学習・支援サイトの利用状況

授業支援システムについては、利用科目数は順調に増加している。また、アクセス数については 2016 年度と比較すると、のべアクセス回数はほぼ変わらずであるがアクセス人数については増加している。学生の所属別データを見ると、授業支援システムおよびポートフォリオシステムのアクセス数において、学域別では工学域の学生の利用率が高い。2016 年度と比較すると、授業支援システムにおける工学域学生のアクセスが増加している。各学域における学生への周知方法などが影響していることが考えられるが、原因の詳細については現時点では不明である。

ポートフォリオシステムについては、のべアクセス数およびアクセス人数について、みごとに月ごとのアクセス数の動向は同じ傾向を示している。数的にはアクセス数とアクセ

ス人数どちらにおいても昨年度よりは増加しているのが見て取れる。

ソフトウェア利用状況

Mathematica Home Use ライセンスについては、30%減、Gaussian については利用者が半減している。ウイルス対策ソフトについては、2018 年 1 月から 3 月末にかけて Symantec から Trend Micro への移行があり、Trend Micro のダウンロード数が 3 ヶ月で 4,712 となっていて、昨年度の Symantec の年間ダウンロード数を超えていることから、ほぼ移行は完了したものと考えられる。また、Microsoft 包括ライセンスについては、教員のダウンロード数が昨年度の 150%程度の増加となっているが、他の数値にはあまり変化がみられない。

情報教育システム利用状況

情報教育システムの利用率は、ほぼ横ばいの状況である。学生の PC やモバイル端末（スマートフォン、タブレットなど）の保有数は増加していると想定されるが、授業の予習復習などにおいてはモバイル端末では作業できないことも多く、PC 端末の必要性にはかわりがない。所属別利用者 1 人あたりの平均利用時間は、知識情報システム学類と獣医学類の学生の利用が特に多く、昨年、一昨年と同じ傾向が続いている。利用場所では C5 棟と B3 棟の利用が比較的に多い。特に端末 1 台あたりの利用時間からみれば、C5 棟の利用時間が圧倒的に多く、18 時以降の利用については C5 棟のみが開放されていることがその要因であろう。

以上、簡単であるがここ 1 年間の各種の統計データから、学内における ICT 利活用の動向や情報セキュリティ関連の状況について報告する。

以上